

一般財団法人市川市福祉公社

平成30年度第1回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成30年9月11日（火） 午前10時00分～午前11:00分
2. 場 所： i-link ルーム 一会議室
3. 出席者 25名

〔委 員〕

議長 高久 悟
委員 四ツ屋 真由美
村尾 薫

以上 委員 3名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課 1名
高齢者サポートセンター市川第一 1名
高齢者サポートセンター市川第二 1名
高齢者サポートセンター真間 1名
高齢者サポートセンター大柏 1名
高齢者サポートセンター国府台 1名
高齢者サポートセンター宮久保・下貝塚 1名
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1名
高齢者サポートセンター市川東部 1名
大学准教授 1名
訪問介護事業所 1名
居宅介護支援事業所 1名

以上 オブザーバー 12名

〔事務局〕

常務理事 林 芳夫
事務局長 今井 真希
事業部長 内野 智美
当該事業管理者 館山 史陽
計画作成責任者 澤村 泉 藤田 健治
司会 川村 真弓

以上 事務局 7名

〔欠 席〕

委員 堀 邦光

以上 欠席 1名

〔公社職員〕

3名

以上 公社職員 3名

■ 開 会

- (1) 事務局より資料の説明を行う
 - ・平成 30 年度 第 1 回 介護・医療連携推進会議資料
 - ・定期巡回・随時対応サービス 自己評価・外部評価表
- (2) 市川市福祉公社常務理事より委嘱状の授与
 - ・高久様
 - ・四ツ屋様
 - ・村尾様
 - ・堀様（欠席）
- (3) 市川市福祉公社常務理事より挨拶
 - ・開会にあたり会の趣旨を説明
 - ・年間の開催が 4 回から 2 回に減ったが、その分皆様の意見を反映していきたい。
- (4) 委員、オブザーバー紹介
- (5) 事務局紹介
- (6) 会長及び副会長の選出
 - ・高久様が会長（議長）、四ツ谷様が副会長に選出される。

●サービス提供等状況報告について

<事務局 澤村>

- ・澤村よりレジュメに沿い 3 月～8 月の相談件数等を報告した。

<四ツ屋委員>

- ・8 月随時の件数が相当上がっており対応が大変であろうことが分かる。医療依存度、介護度も高くなっている印象を受ける。

<事務局 澤村>

- ・7 月に件数が下がったのは 1 名入院の影響。それに伴い 8 月に随時の件数が上がったのはその方が退院後、自宅に戻られた際の不安から通報が増えたためである。

<村尾委員>

- ・セントケアが 5 月に撤退され現状 2 社のみだが、南部地域への対応やそれ以外の地域を広げていく方向性等、公社への影響は出てきているか。

<事務局 館山>

- ・セントケアからの移行ケースは南部の 2 件以外に現状では新規は生じていない。南部の事業所からの相談や依頼はあるものの、お受けできないケースもあった。

<村尾委員>

- ・時間の重複等無ければ受けられるか。今後、南部地域を増やしていく意向はあるか。

<事務局 館山>

- ・南部に限らないが、定期巡回でなければ生活が困難になる利用者は確実に存在し、市内 2 事業所しか無い中、できうる限り体制を調整しながら受けていきたい。

<村尾委員>

- ・南部方面のケアマネージャーも困っているようだ。公社でも受けられるとアナウンスの必要性を感じる。

<高久議長>

- ・行徳方面のセントケアが撤退したとの事だが、公社として地域指定の変更等はあるか。

<事務局 館山>

- ・圏域外でもお受けできる余地があれば可能ではあるが、無理のない範囲で考えている。

<高久議長>

- ・市の事業計画ではもう 2 か所事業所を増やす予定であるが、「繋ぎ」として何らかの依頼等はあるか。

<事務局 館山>

- ・特にない。

<高久議長>

- ・利用者、回数ともに増加傾向だが、職員体制等工夫されているか。

<事務局 館山>

- ・都度、募集を行っているが現職員の人数では限界があるため、フレックス勤務対応や滞在ヘルパーに依頼をする等、どうにか対応している状況である。

<高久議長>

- ・高齢化率の増加に伴いサービス量も増加していくことは必至であると思うが、どうなっていくのか今後は心配である。
- ・相談件数も増加しているが、このような会議やその他ケアマネージャーの会議等で周知が進んでいるということか。

<事務局 館山>

- ・これまで依頼のなかった居宅介護支援事業所からの新規依頼もあり以前より認知度は上がってきていると感じている。ケアマネージャーも使い勝手が分かってきていただいております、繰り返しご依頼もある。

<高久議長>

- ・採算性の厳しい事業であり、通所事業に比べても大変だと思うが期待している。

●自己評価について

<事務局 藤田>

- ・自己評価表に基づき説明。

<村尾委員>

- ・前年度に引き続き「ほぼできている」である。2 番についてパート職員までの周知はなかなか難しいと思うが周知継続して欲しい。5 番について対事業所ごとに FAX やメール、電話等、よりスムーズな連携を心掛けて欲しい。

<四ツ谷委員>

- ・「ほぼできている」ではなくて「できている」でいいと思う。

<高久議長>

・外部評価に携わり 3 年目となる。各項目の内容について感じるのは、この評価は、監査とは違い市民に見てもらおう一つの参考評価であるはず。長くやっていくことでサービスも習熟していくと思われる。市民目線で見ると「ほぼ出来ている」と「出来ている」の差が分かりにくい。やはり市民に理解してもらうには何らかの事例があった方がやりやすいのではないかな。また、評価が去年と同じ「ほぼできている」のままでは「何も変わっていない」と評価されること自体が心外であり何らかの工夫が必要と考える。特に 5 番、32 番は「やってく

れている」という評価であり、十分できているという評価でもいいのではないか。改善できていない課題が書いてあるとより分かり易い。また、システムや行政が変えられるような項目であれば「十分できている」になるということは考えられるか。行政判断も含めて項目の中身を変えていくことも視野に入れたい。

<四ツ谷委員>

- ・29番について、当事業所に依頼がくる案件のルートとして以前は公社のケアマネージャーからが多かったが、現在は他事業所のケアマネージャーからの案件が多くなってきていることから周知されてきていると感じる。

<村尾委員>

- ・32番について高齢者サポートセンターへの周知はされているようだが、事業を行っているからこそその課題等があれば福祉部とのやりとりも視野に入れて連携していければ良いと思う。

<事務局 館山>

- ・本来はサービス圏域内での対応が望ましいと思われる。圏域外対応は訪問まで30分以上かかってしまうことになり、適切なサービス利用につながらないのではと感じている。サービス圏域に事業所があることが望ましいと思う。この事業が無ければ生活が成立しない利用者がありジレンマを感じる。

<村尾委員>

- ・定数を下げたり増やしたりという事は簡単に出来ないことからなかなか継続が難しい事業。具体的に困難な事例について福祉部にも提示していく必要性を感じる。そのことは公社がこの事業を継続するうえでもプラスになると思う。

<高久議長>

- ・32番について前回も「ほぼできている」だったが「できている」でいいと思う。改善できていない課題があれば書いてあると判りやすい。(項目の内容について)システムや行政的に変えられれば「できている」になるという事もあるかもしれない。

<事務局 館山>

- ・サービスを知っているケアマネージャー、全く知らないケアマネージャー、使ったことが無いケアマネージャー等それぞれであり、個々に出向いて説明する機会を持ちたいが、できていない状況であるため評価を現状維持にしている。

<高久議長>

- ・企業努力だけでは限界があると思う。公的サービスなのでもう少しやりようはあるかと思うが、自信は持っていないと思う。

<村尾委員>

- ・結果評価について、よく頑張っていると思う。

<四ツ谷委員>

- ・モニタリングに行った際、利用者からの評価が高い。「いつでも来てくれる安心感がある」と伺っている。

<高久議長>

- ・「いつでもきてくれる安心感がある」ことは周知の材料にしていってみたいかどうか。

<事務局 館山>

- ・皆様のご意見を事業運営の課題にしていきたい。

●オブザーバーの方々から

<市川市福祉部福祉政策課>

- ・高久議長のご指摘のとおり、このサービスが偏在していることは認識している。今後利用率の伸びも1.5倍を見込んでありH31年度に1事業所、H32年度に1事業所の募集を行う予定。エリアについてはお約束できない状況。

<高齢者サポートセンター菅野・須和田>

- ・頑張っていらっしゃると思う。職員の健康状態やストレス等に対してフレックスを導入されているとの事だが、メリットやデメリットはあるか。また、公平性の面からも南部の利用者も利用できる体制を整えてほしい。

<事務局>

- ・職員同士お互いさまでカバーしあい工夫している。また、有給休暇や夏季休暇等でなるべく長く休みを取ってもらいリフレッシュを図れるよう、そのことでも利用者第一に繋がるよう努めている。メリットは通報上り次第、即訪問へ向かうことが出来る点。デメリットは、フレックス勤務でも随時の通報が上がれば訪問に向かわざるを得ないため、退勤時間が遅くなる点。時間の繋がり部分でのサービス提供が日々の課題。

<高齢者サポートセンター宮久保・下貝塚>

- ・重介護の方との接点は無いが、福祉政策課からの31年、32年と事業所が増えるのが少し先の事なのでそれまでの間はどうか。会社だけが抱える課題ではないはずである。地域課題として行政にあげていい案件だと思う。地域の皆で考えるべきで企業努力だけでは立ちいかないとと思う。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・このサービスは必要不可欠である。今まで説明して利用につながったことは無いが、今後も勉強していきたい。

<高齢者サポートセンター大柏>

- ・利用者第一との事だが、職員の体調が心配。フレックスとはいえ限られた人数で対応していると思うので、職員の体調管理が第一と考える。

<高齢者サポートセンター市川東部>

- ・ニーズは高い事業。陰で事業所がどのような努力をしているのかわからない方もおり、そのことでクレームにつながる恐れもある。

<高齢者サポートセンター市川第二>

- ・今夏はとても暑く大変だったと思う。救急搬送を減らすためにもこのサービスを使うことはメリットになると思う。利用者のみならず職員の体調にはくれぐれも気を付けてほしい。

<高齢者サポートセンター国府台>

- ・必要なサービスが必要な方に届くよう周知していきたい。南部地域の展開については皆で考えるべき。

<高齢者サポートセンター市川第一>

- ・自己評価の内容に決まり事はあるのか。クレーム対応についての言及が項目に無い。
- ・震災等災害対応はどのようなものか。

<事務局>

- ・自己評価の項目は決められたフォーマットで対応しており苦情処理に関する言及はない。
※自己評価項目のフォーマットは厚生労働省より提示のあった書式を使用していることについて後日確認しております。
- ・避難訓練等、半年に1回行い、マニュアルも存在する。利用者との連絡方法等も決めている。

<大学准教授>

- ・この事業はこのサービスを使わないと生活できない人が出てくるとのこと。それだけに職員が相当無理をしていることがイメージできる。様々な人材を繋げていく等工夫をしなければいけない部分はあるはず。自己評価・外部評価をPR活動に繋げていくことも工夫のひとつ。

<訪問介護事業所>

- ・市内2事業所であり、大変頑張っておられると思う。連携して南部方面も受けられるよう尽力する。

<居宅介護支援事業>

- ・随時で利用ケースを担当している。社内研修でこの事業を体験しており、説明できるので提案していきたい。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 平成31年2月初旬

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回ステーション 藤田